

## Executive Comments by

**Dr. Ichiro Taniguchi**

### AIAA 衛星通信フォーラム会長就任に寄せて



三菱電機(株) 取締役会長 谷口一郎

#### 著者略歴

- 1959年：三菱電機(株)入社 中央研究所配属
- 1990年：同社 鎌倉製作所所長
- 1991年：同社 取締役 電子システム事業本部副本部長
- 1995年：同社 取締役 電子システム事業本部本部長
- 1995年：同社 常務取締役 電子システム事業本部本部長
- 1997年：同社 専務取締役 電子システム事業本部本部長
- 1998年：同社 取締役社長
- 2002年：同社 取締役会長

昨年9月からAIAA衛星通信フォーラム会長に就任致しております谷口です。このフォーラムはAIAA TCCS(Technical Committee on Communications Systems)のSub-Committeeに位置付けられ、JFSC(Japan Forum on Satellite Communications)と称されています。この度、スペースジャパンレビュー誌にて日頃の考えを論ずる機会を与えられ大変光栄に存じます。

21世紀の衛星通信は情報通信技術の目覚ましい発展により、インターネットやデジタル放送の普及、マルチメディア、ブロードバンドサービスの充実など、サービスの多様化と高度化と共に一層のパーソナル化が進み、需要が増大していくものと予測されます。また、最近のデジタル技術の進展は、衛星通信及び衛星放送分野でアナログからデジタルへの移行が全世界的に急速に進んでいます。我が国でもCSデジタル放送に続き、2000年12月にはBSデジタル放送サービ

スが開始され、BS アナログ放送と合わせ受信世帯数は1600万以上に達しています。更に、衛星音声デジタル放送も2001年9月に米国で開始され、日本、ヨーロッパでも導入が計画されています。一方、移動体通信は、低・中高度軌道の衛星を利用した国際パーソナル通信システムは経営的に非常に厳しい状況にあります。静止衛星を利用したシステムは小型の携帯型端末が利用可能な次世代システムが実現されており、我が国でも検討されています。

今後の衛星通信は大容量化・高速化が要求され、高速インターネット、マルチメディアなどのブロードバンドサービスの充実が期待されています。ブロードバンドサービスについては、既に運用中のKuバンド通信衛星を使ったサービスが開始されていますが、本格的には、計画中のKaバンド等の周波数を利用した高速衛星通信システムの実現が待たれるところです。現在、これらのサービスに利用されている商用衛星は全世界で約250機が運用されており、静止衛星軌道位置、通信用周波数とも飽和状態にあり、新しい周波数帯の開拓とともに軌道の有効利用が必要で、新しい考え方が求められています。

このような状況下、我が国では準天頂衛星システムの検討を官民連携して進めようとしています。準天頂衛星は中緯度地域に適したシステムで、高仰角が得られることから通信に限らず様々な分野での利用が考えられます。種々の課題はありますが、この新しい衛星通信システムの実現は日本、アジア、太平洋地域、さらには世界の衛星通信分野の発展に寄与できるものと期待しています。世は当に変革の時代です。従来の既成概念に縛られない柔軟な考え、新しいアイデアを共有し、全員で議論すべきと考えます。その場としてAIAA衛星通信フォーラムを活用されることを会長として期待しております。また、来年4月には、我が国で2回目なる第21回AIAA ICSSC(International Communications Satellite Systems Conference)会議が、前回同様、横浜みなとみらい地区にて開催されます。国際会議は各自のアイデア、考え方を広めるには絶好の場と考えます。奮って参加されることを切に希望いたします。